

7/29
朝日

法的安定性「確保は当然」

首相、補佐官発言で証明

安全保障関連法案を審議する参院の特別委員会は28日、安倍晋三首相が出席し質疑が始まった。野党は、議長官房長官は28日の会見で、磯崎氏に電話で注意したことを明らかにした。磯崎氏の更迭は否定した。

衆院の内閣法制局長官が憲法上認められないと答弁してきたこととの整合性を指摘した。横畠裕一郎氏は集団的自衛権について火事に例えたことについて、民主の小川敏夫氏は「消防士を鉄砲で殺そうとする敵はない。消防士も誰かを殺さない。武力行使ではない」と述べた。

首相は磯崎氏の発言について、「法的安定性を確保するのは当然のことだ。その疑惑を持たれるような発言は慎まねばならないと

介・内閣法制局長官は、武力行使の新3要件に基づき、集団的自衛権の行使を「限定的」に容認するとして、「歴代政府、内閣法制局も含めて、限定的な集団的自衛権という観念は持ち合わせていなかつた」と説明した。

一方、与党は、北朝鮮の核・ミサイル問題や中国の海洋進出などを挙げ、法整備の必要性に焦点を当たった。首相は「野党も対案を出し、一致点を生み出す努力を重ねていくことが政治家の責務だ」と述べ、民主党などに对案を出すよう求めた。(三輪和洋子)

例を挙げて説明するのはおかしい」と批判した。首相は「結構わかりやすかった」という人もたくさんいたと思う」と述べた。